

議題提案書

【 】 協議事項

【●】 報告事項

議題名：第 1 回世界人道サミットにおける市民社会の活動

【提案者氏名、所属】

氏名：サイモン・ロジャース

所属：防災・減災日本 CSO ネットワーク / ピースボート災害ボランティアセンター

【議題提案の背景説明】

5 月 23 日～24 日、国連主催の世界人道サミット（WHS）がトルコのイスタンブールで開催され、各国政府、市民社会から約 5000 人の代表らが参加した。

これに合わせ、防災・減災日本 CSO ネットワーク（JCC-DRR）は、日本政府、民間企業、大学、JPF と連携し、5 月 24 日に人道支援におけるイノベーションのモデルについて日本の事例をもとに議論するサイドイベント「More Innovation for More Impact – The lessons from Japan towards regional and global innovation alliance」を開催した。

また、日本の市民団体「福島ブックレット委員会」とトルコの市民団体「脱原発プロジェクト Nukleersiz.org」は、同サミットの参加に合わせ、トルコのメディアを通じてトルコの市民へ福島原発事故の教訓を伝えるための記者会見を開催した。

第 2 次世界大戦以降、最悪の人道危機を迎えているといわれている現在、国連主導で開催された世界人道サミットにおいて市民社会が取り組んだ活動とその成果を報告する。

【主な成果】

1. イノベーションに関するサイドイベントでは、日本からの参加者として政府・企業・大学・NGO が参加し、真にマルチステークホルダーなパネルを構成することができた。
2. 2016 年 3 月に仙台市で開催した「Humanitarian Innovation Forum」の学びを、世界人道サミット参加者に発信することができた。
3. イスタンブールで発足した Global Alliance for Humanitarian Innovation (GAHI) への提言を、世界人道サミットの参加者に発信することができた。
4. ADRRN（アジア防災・災害救援ネットワーク）や ACT Alliance などの地域レベルでの NGO ネットワークもサイドイベントのパネルに参加し、今後の日本から広まっていく人道イノベーションにおける協力体制が確認できた。
5. サイドイベントの様子は広く Twitter や Facebook 等のソーシャル・ネットワーキング・サービスで紹介され、今後の日本の動きに対しての期待も高まった。

【外務省への事前質問】

特になし

【出席を希望する外務省部局または担当者】

国際協力局 緊急・人道支援課

以上